

豊かな感性・日々の努力

活躍選手や優秀作品を表彰

町芸術文化賞・スポーツ優秀選手賞 町民文芸コンクール 表彰式

平成24年度只見町教育委員会芸術文化賞・スポーツ優秀選手賞表彰式と、第36回只見町民文芸コンクール表彰式が、2月24日に季の郷湯ら里で行われました。



▲各賞を受賞された皆さん「おめでとうございます」

はじめに、青少年健全育成主張大会及び標語入賞者の表彰式が行われ、引き続き、芸術文化賞・スポーツ優秀選手賞の表彰式と、第36回只見町民文芸コンクールの表彰式が行われました。

式では芸術文化賞を受賞された朝日小学校1年の佐藤静香さん、そして各大会などで素晴らしい成績を収めた10名の皆さんと2団体にスポーツ優秀選手賞が贈られ、それぞれ表彰されました。

続いて町民文芸コンクール4部門（作文・詩・短歌・俳句）319点の応募作品の中から審査の結果選ばれた、優秀作品の入賞者が、表彰を受けました。

町民文芸コンクールの講評には、「文書を書くことはとても大事で感性も磨かれます。豊かな感性ですばらしい作品を作り上げてください。来年以降も参加してください」とありました。

町民文芸コンクールの各部門で特選に輝いた作品をご紹介します。

短歌部門

	<p>小学校下学年の部 特選 只見小1年 大竹 未桜さん らっこはね ねながらえさを たべるんだって そんなことしたら しかられるよきつと</p>
	<p>小学校上学年の部 特選 只見小6年 新國 愛菜さん 秋の夜 辺り一面 白い霧 ぼんやりうかぶ 家々の光</p>
	<p>中学生の部 特選 只見中2年 菊地 萌花さん 秋雨は 私の心を 惑わせる 君と聞きたい ショパンの音色</p>
	<p>高校生の部 特選 只見高3年 吉津 翔大さん 3日間 はなれただけでも なつかしく 不思議とおちつく 私の故郷</p>
	<p>一般の部 特選 只見 新國 由紀子さん シー出た？と 聞けば時おき シー出たと 九十五歳の 父は幼し</p>



ぼくとかまきりくん

作文部門 小学校下学年の部

朝日小1年 さんべ



そうたくん

じまんのかまをもちあげて、まえをぎろつとにらみつけ、わつき、わつきとあるきだす。ぼくは、さんかくのあたまと、きりりとしてかっこいいすがたの、かまきりくんがだいすきだ。かまきりくんとなかよくなりたいたい。

かまきりくん、ぼくのことをみえているかい。ぼくは、きみにあいに、ひるやすみになると、はたけやくさむらにいくんだよ。なのに、ぼくのことをみつけると、はねをひろげて、いかくしているんだよね。きつと、ぼくのほうがからだがおおきいから、つよそうにみえるんだらうね。でもね、ぼくは、いじめないよ。だつて、ぼくは、きみがだいすきなんだもの。きみが、ぼくのことをみて、どうおもっているのかな。かまきりくんには、みつからないようにして、こっそりとのぞいてみた

んだ。そしたらね、すごいところをみたんだ。とかげがきみにだいせつきん。おもわずぼくは、たすけてあげようとしたんだ。でも、そのときに、おおきなからだのかまきりがあらわれて、「こらあ、あつちへいけよ。」と、とかげにいつているように、かおをちかづけて、いかくしていたよ。にんげんのせかいも、かまきりのせかいも、なかつつてすごいんだね。ぼくは、ほつとした。それから、きみのみどりいろと、はつぽのいろがにているから、ぼくたちになんげんにつかまらないように、はつぽのかたちにあわせて、くつついていたよ。きみたちは、あたまがよいね。ほかにもあるよ。はつぽのうえを、ゆつくりとさんぽをしていて、きよろきよろとなにかをさがしているかまきりくんをはつけん。そのときにも、かまをうえにもちあげてあるいていたよ。やつぱり、かっこいいなあとみていたら、まえあしをはつぱからすべらせて、おちてしまったんだ。ぼくは、おも

わす
「あつ、あぶない。」

と、こえをあげてしまったんだ。かまきりくんは、みずたまりにおちてしまった。どうしようとおせるぼくのめのまえで、なんとじようずなおよぎをみせてくれたね。ぼくは、きづかれないうちに、はくしゆをしたよ。ぼくのこぎゆうも、かまきりくんには、たいふうみたいかなあとかんがえて、えんりよしたんだからね。でも、うれしくて、ぼくのかおは、えがおだったよ。ほんとうに、ほつとしたよ。

かまきりくんは、むしのせかいのライオンみたいなかんじだね。きみのまえあしには、するどいとげのれつがあり、おりたむともものをつかまえることができるかまになつていているのが、すごいぶき。目もおおきくて、くびは、じゆうにうごき、まわりをみわたすこともできるし、よるになると、目をくろくくびかとかせて、まわりをよくみているしね。かっこよさとつよさをもつて、ほかのむしからじぶんをまもつていきっているきみを、ぼくは、これからもおうえんしていくからね。

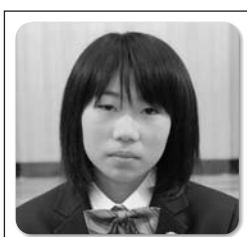
俳句部門



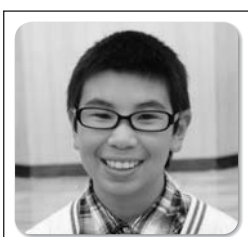
一般の部特選
庭木々を
囿う新藁
句いたつ
黒谷 目黒 富子さん



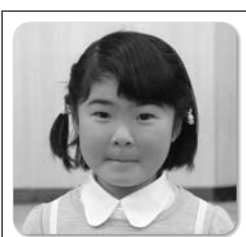
高校生の部特選
空見上げ
もう冬だよと
風の声
只見高2年 菅家 知佳さん



中学生の部特選
アジサイに
キラリ輝く
雨しづく
只見中1年 佐藤 有佳さん



小学校上学年の部特選
冬の夜
外で星座を
ながめよう
明和小5年 河原田 隼斗くん



小学校下学年の部特選
すずめさん
わたしを見ても
にげないで
只見小1年 五十嵐 陽菜さん



作文部門
小学校上学年の部

スランプはチャンス

只見小5年 鈴木 伶菜さん



「あー、もうつかれた。休みたいな。」

私はそう思った。剣道の地げい古をしている時だ。私は、只見剣道スポ少に所属している。地げい古は、一対一で打ち合うけい古で、自分の力を試すことができる。基本げい古をたくさんした後にするけい古だから、私は地げい古のころはいつもつかれている。動きがおそくなり、防具がいつそう重く感じられる。私は、五年生になって、剣道の調子が良くない。そしてときどき私は、剣道のセンスないのかな。と落ちこむ時もある。

私は、母にすすめられて、一年生から剣道を始めた。不思議とやめたいと思ったことはなく、意外と自分に合っていたから、五年生まで続けられたのだと思う。

三年生の時、私は一度自分の剣道について作文を書いたことがある。内容は、試合で勝てるようになるまでのむずかしさについてだった。その時以来、あまり深く考えずに剣道をしている。調子が出ない今こそ、自分

の剣道をふり返るよいチャンスだと思う。

四年生の時は、自分なりに調子が良かった。その中でも忘れられないのは、四年生の十一月に出場した南会津郡剣道大会（田島大会）で、私をふくむ女子三名のチームが団体戦低学年の部で、優勝した時だ。この時私の試合成績は、四試合戦って三勝一引き分けで、自分でも納得のいく結果を出すことができた。この時私達はもちろん、だれも私達のチームが優勝するとは思っていなかった。始めは実感がなかったが、だんだん自分達が優勝したんだと分かってきた時は、今まで味わったことのないうれしさと達成感を感じることができた。この大会で学んだことは、メンバート同士で、がんばろうと声をかけ合うことが大事だということ。そして、それまで自分はあまり強くないと決めつけていたが、自分で自分の力を決めつけないことが大事だと学んだ。

その他に、同じく四年生の夏に行われた全会津シモン旗杯（坂

下大会）では、個人戦でベスト8になり自信につながった。

この調子で五年生になっても体がよく動き、けい古が楽しいと思えたり、大会で良い結果が出せると思っていた。

しかし実際には、けい古の調子もあがらないし、試合が良い結果も出ていない。私はこれが『スランプ』というものなのか、と思った。

先日陸上練習をしていた時、担任の先生が『スランプ』について教えてくれた。ちょうど私がハードルで転び、タイムもろびず、落ちこんでいた時のことだ。

「どんなスポーツでも、練習をしているときに、うまくいかない、調子が出ない時というのは必ずある。そういう時があっても努力を続けることが大事だ。努力はうら切らない。」と。それを聞いて私は少しほっとした。こういうことはよくあることだと分かったからだ。

私は次のように考えることにした。剣道の調子が良くなっても落ちこまず努力を続けること。

時には、かたの力をぬいてこれまでの自分の剣道を見直すこと。そして、ただけい古をするのではなく、毎回目標をもってけい古すること。これからのことは、これから先もいろいろな場面であてはめられる考え方だと思った。

今までやってきた剣道は無駄にはなっていないし、実際に剣道を通して身につけたことがある。私は前より、心が強くなったと思うし、何か問題が起きた時、それに立ち向かう力がついたと思う。

目標を持って剣道が続けていけば、いつか『スランプ』から抜け出せるだろう。その時が楽しみだ。そして、その時”私の剣道は向上しているはずだ。今、私はそのチャンスを手にしていると、またけい古にはげようと思う。やっぱり剣道が好きだから。





作文部門 中学生の部

絶対に忘れない

只見中1年 目黒 眞子さん



東日本大震災から一年数ヶ月が過ぎた。一年ほど前までは、テレビなどで被災地の状況が多く伝えられていたが、最近ではそのような報道はかなり少なくなってきたように感じる。しかし、被災地では今でも、私たちが知らないところでもまだ大変な生活を送っている人はたくさんいると思う。

あの日、海沿いの被災地に、十メートルを超える巨大な津波が襲った。そして、何人も尊い命が犠牲となった。また、命は助かったものの、停電や断水、さらには原子力発電所の事故などでつらい避難生活を送った人もたくさんいた。それらの情報は、震災直後のテレビ番組を通して知った。私はそのとき、同じ日本で、同じ福島県で、こんなにも過酷なことが起こっているなんて信じられなかった。なぜなら、私たちの住む只見町は、比較的被害が少なく、電気も水も普通に使えていたからだ。しかし、つらい生活を送られている被災地の方々の気持ちを、知ることになる出来事がこの只

見町でも起こった。七月二十九日の集中豪雨だ。あの日は停電で電気も使えず、水も全く出なかった。とても不便で大変だった。被災地の方々は三月のあの日以来、こんなにもつらい生活を送っていたのだと思うと、震災で何も被害がなく、とりあえず「よかった」と胸をなで下ろしていた自分がとても恥ずかしく思えた。被災地の方々は、自分たちがつらい思いをしているにもかかわらず、水害にあったこの只見町を助けてくれた。豪雨により、用水路や河川にたまった土砂やがれきの後片付けなどの、ボランティア活動。さらに支援物資など、たくさんの方に只見町に送って、孤立した場所に届けてくれた。なんて優しい人たちなのだろうと心から感謝した。

対にないと思う。原子力発電所の事故後、福島県内の人たちは目に見えない放射線の恐怖により、不安な日々を送っている。そんな中、他の地域に行ったら、福島ナンバーというだけで車に落書きをされたりなど、ひどいことをする人がいることをニュースで見た。とても悲しかった。しかし、そんなことをする人はほんの一部。逆に心配をしてくれる人もいる。インターネットの書き込みを見ていたら、福島県の人に対して、「自分の周りでは、放射能とか気にしている人もいるけれど、私はそんなの全く気にしていない。いろいろ大変だと思うけれど、くじけないでがんばってください。」などと励ましのメッセージをくれる人もいる。みんながみんな福島県に対して白い目を向けているわけではない。むしろ心配してくれる人もたくさんいる。

あの日から一年以上過ぎた。私は今までと同じように日常生活を送っている。何かきっかけがなければ、あの災害のことを忘れてしまいがちである。そんなある日、只見中学校で教育講演会が行われた。講演をしてくださった先生の言葉の中にとっても印象に残っている言葉がある。それは「当たり前のことを当たり前と思わない」という言葉だ。今、私の中では、普通に電気、水を使うことが当たり前、屋外の活動ができることが当たり前だった。しかし、それは違うのだと感じた。周りにはいつも助けてくれる家族、友達、先生がいて、自分は一人で生きているわけではない。当たり前だと思っていることが、毎日当たり前に行っているというのには、実は当たり前ではない。いつ、今までの生活ができなくなるかわからない。だから私は、今まで以上に、一日一日を大切に、周りに支えてくれる人がいることに感謝しながら生きていきたい。



第36回 おめでとう 町民文芸コンクール入賞者

(敬称略)

【作文部門】

■小学校下学年の部

- ◎特選 三瓶 創大(朝日小1年)
- ▽入選 新國 太陽(只見小3年)
- ▽佳作 青山日菜花(只見小1年)
- 本名 真歩(朝日小1年)

■高校生の部

- ▽入選 馬場 祐多(只見高1年)

■一般の部

- ▽入選 渡部 ミヤ(小川)

■中学生の部

- ▽佳作 鈴木 翔(只見中1年)

■小学校上学年の部

- ◎特選 鈴木 伶菜(只見小5年)
- ▽入選 坂内 夏海(只見小5年)
- 新國かすみ(只見小6年)
- ▽佳作 目黒 杏里(只見小6年)
- 菅家 和浩(朝日小6年)
- 酒井 美来(明和小4年)

【短歌部門】

■小学校下学年の部

- ◎特選 大竹 未桜(只見小1年)
- ▽入選 鈴木 百香(只見小1年)
- 目黒 希(朝日小2年)

■小学校上学年の部

- ◎特選 新國 愛菜(只見小6年)
- ▽入選 目黒 温(只見小6年)
- 星 妃乃(朝日小4年)
- ▽佳作 鈴木 萌(只見小5年)
- 五十嵐美月(只見小5年)

■中学生の部

- ◎特選 菊地 萌花(只見中2年)
- ▽入選 飯塚 春輝(只見中1年)
- 日野 涼(只見中3年)
- ▽佳作 目黒 史也(只見中1年)
- 酒井康太郎(只見中3年)

■高校生の部

- ◎特選 吉津 翔大(只見高3年)

- ▽入選 小勝 直人(只見高1年)
- 目黒 梨和(只見高1年)

- ▽佳作 横田 開(只見高2年)
- 阿久津 愛(只見高3年)

■一般の部

- ◎特選 新國由紀子(只見)
- ▽入選 小倉キミ子(長浜)
- 五十嵐ナツミ(福井)
- ▽佳作 渡部ユキ子(福井)
- 新國 洋子(只見)

【俳句部門】

■小学校下学年の部

- ◎特選 五十嵐陽菜(只見小1年)
- ▽入選 目黒 羚(朝日小1年)
- 酒井 真生(朝日小3年)

- ▽佳作 羽染 治輝(只見小1年)
- 五十嵐巧翔(只見小3年)
- 浅野 礼(明和小2年)

■小学校上学年の部

- ◎特選 河原田隼斗(明和小5年)
- ▽入選 川合 未来(只見小6年)
- 布沢 陽斗(明和小5年)

- ▽佳作 高階 涼矢(只見小4年)
- 新國 拓(只見小5年)
- 渡部 里咲(只見小6年)

■中学生の部

- ◎特選 佐藤 有佳(只見中1年)
- ▽入選 長谷川夏美(只見中2年)
- 須佐 萌(只見中3年)

- ▽佳作 新國 優(只見中3年)
- 本名 未幸(只見中3年)
- 渡部 早紀(只見中3年)

■高校生の部

- ◎特選 菅家 知佳(只見高2年)
- ▽入選 柳下 一貴(只見高1年)
- 齋藤 雄(只見高3年)
- ▽佳作 五十嵐千春(只見高1年)
- 五十嵐 慧(只見高2年)
- 菅家 豪人(只見高3年)

■一般の部

- ◎特選 目黒 富子(黒谷)
- ▽入選 酒井 邦雄(福井)
- 三瓶 淑子(大倉)
- 三瓶夕カキ(黒谷)
- 船木トモ子(黒谷)
- 五十嵐邦男(只見)

【詩部門】

■小学校下学年の部

- ▽入選 酒井 伶斗(只見小1年)
- 佐藤 暖瀬(朝日小1年)
- ▽佳作 鈴木 詠大(只見小1年)

■小学校上学年の部

- ▽入選 馬場 葉月(明和小4年)
- ▽佳作 小林明日香(明和小6年)



▲三瓶創大くん(小学校下学年の部・作文部門特選)

おめでとう

平成24年度 芸術文化賞 スポーツ優秀選手賞受賞者 (敬称略)



▲受賞者の皆さん「おめでとうございます」

〔芸術文化賞受賞者〕

◎佐藤静香(朝日小1年)
 〓第58回青少年読書感想文

コンクール県特選

〔スポーツ優秀選手賞受賞者〕

◎渡部賢太郎(朝日小6年)

〓第65回福島県総合体育大会スノーボード少年団体大会スノーボード大会男子大回転第3位

◎只見ガッツスポーツ少年団(パレーボール)(鈴木菜美・新國

かすみ・目黒杏里・新國愛菜・

大竹涼華・鈴木凜・大塚琴美・

山内優・鈴木萌・菅家夏芽・新

国理紗・小林聖佳・鈴木美羽・

五十嵐せな・鈴木来菜)

〓うつくしまふくしま第35回福島県小学生バレーボール選手権大会第1位

◎馬場那央也(只見中2年)

〓第55回福島県中学校体育大会スキー競技大会クロスカントリ男子フリー第2位

◎渡部優花(只見中2年)

〓第24回福島県中学校新人陸上大会会津地区予選会共通走高跳第1位

◎只見中学校スキー部男子(一条英昭・伊藤舜・馬場那央也・五十嵐高弥)

〓第55回福島県中学校体育大会スキー競技大会クロスカントリフリー第2位

◎齋藤未来(只見高3年)

〓第58回福島県高等学校体育大会会津地区予選会女子5kmW第1位

◎飯塚奈央(只見高1年)

〓平成24年度福島県高等学校新人体育大会会津地区予選会女子800m第1位

◎小沼拓矢(只見高1年)

〓全会津秋季陸上競技大会男子ハンマー投げ第1位

◎柳下朝実(南会津高3年)
 〓第58回福島県高等学校体育大会会津地区大会女子バレーボール第1位

◎大竹妃菜(南会津高2年)

〓第58回福島県高等学校体育大会会津地区大会女子バレーボール第1位

◎川合祥太郎(聖光学院高3年)

〓第94回全国高等学校野球選手権福島大会ほか硬式野球第1位

◎大川浩史(松枝岐中学校教員)

〓第51回全日本教職員選手権大会バドミントン男子40複第3位

各賞の表彰基準

芸術文化賞の表彰基準は、全県のコンクール等で最上位、東北地方のコンクール等で上位3位相当以内、全国のコンクール等で上位5位相当以内です。

スポーツ優秀選手賞の表彰基準は、全会津の大会で1位、全県の大会で3位以内、東北地方およびそれに準ずる大会で6位以内、全国の大会で10位以内です。